

# 【峡南半農半×だより】 第5号

## —「ナス」と「キュウリ」の栽培方法について—

令和8年6月29日  
山梨県峡南農務事務所

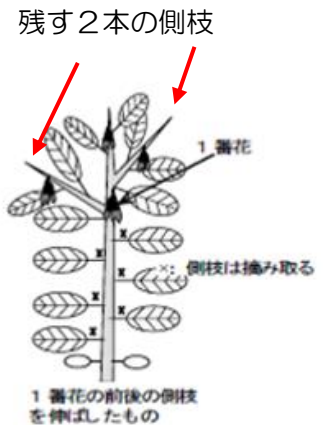
梅雨の終わりが近づき、日差しが徐々に強まる季節となってきました。これから本格的な夏を迎え、野菜の生育もますます活発になってきます。

さて今回は、夏野菜の代表格である「ナス」と「キュウリ」について、この時期に行っておきたい基本的な管理方法を解説します。

### ～ナスの栽培方法～

#### (1) 仕立て方法

主枝と1番花の前後の2本の側枝（主枝から伸びる枝）だけを残り、その他の側枝はすべて摘み取り、3本に仕立てましょう。



#### (2) 追肥・かん水

##### ① 追肥

肥料をすべて元肥で施した場合、原則、追肥は行いません。追加で肥料を施す場合、収穫期に入った頃から、生育状況を見ながらおおむね20日間隔を目処に、窒素成分で10a当たり3～4kgを追肥しましょう。

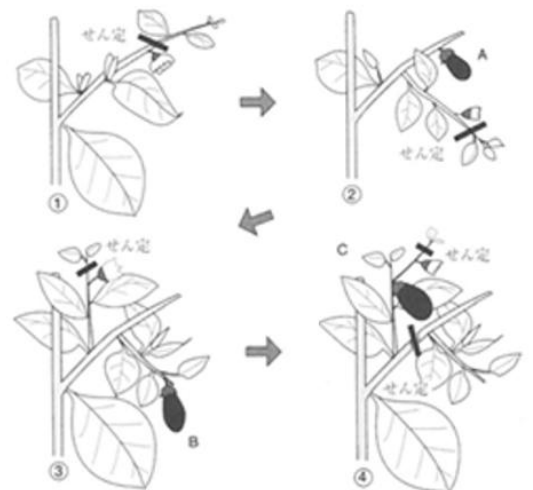
##### ② かん水

梅雨明け後や盛夏期には、ナスの表面にツヤがない果実の発生防止のため、乾燥時は早朝か夕方にかん水をしましょう。

#### (3) 整枝・せん定（1側枝1果どり剪定法）

- 仕立てた3本から伸長した側枝の葉2枚目と3枚目の間に蕾が形成されるので、開花時に花の先をせん定します。
- ①の花に実がつき収穫可能な果実（A）になる頃に、下方の葉のわきから蕾が形成されるので、開花時に①と同様に花の先をせん定します。
- ②と同様に、果実（B）が収穫できる頃、側枝が開花するので花の先をせん定します。
- 果実（B）の収穫時に、④の図の位置をせん定し、切り詰めます。

#### 側枝の更新方法



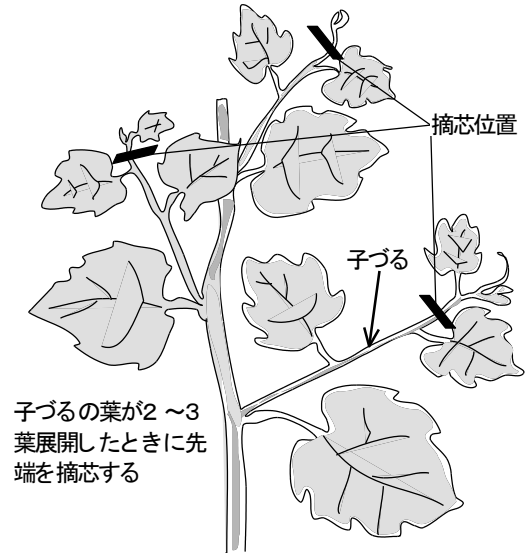
#### (4) 収穫（開花から20日前後）

気温の低い早朝に収穫を行い、収穫後の袋詰め等の作業もなるべく低温を保ちながら、実を傷つけないよう注意しましょう。

## ～キュウリの栽培方法～

### (1) 摘芯（植物の茎や枝の先端にある芽を摘み取ること）

主枝の下から5節（茎の節ごとに花や実がつく部分）までの子づる（主枝からでてきたわき芽）は早めに取り除き、それ以上の節の子づるは2節で摘芯とします。孫づる（子づるからさらにでてくるわき芽）については1節で摘芯としますが、上段では行いません。なお主枝については、高さ160cm程度で摘芯します。摘芯は一度に行うと、木の成長が弱くなるので、徐々に行います。



### (2) 摘葉（植物の健康や成長を目的として不要な葉を取り除くこと）

キュウリの株の内部に光を良く当て、通風を良くして病害虫の発生を予防するために摘葉を行います。キュウリの葉は展葉（植物の葉が芽から伸びて開く状態）後50日で役目を終えるので、その様な葉を中心に摘葉をします。ただし1回に行う摘葉は1株3枚以内とし、株への負担を軽くします。病気や虫の影響で、黄色に変色した葉は早めに取り除きましょう。

子づるの摘芯位

### (3) 摘果（果実を摘み取ること）

曲がったキュウリは早めに摘果して、株への負担を軽くします。

### (4) 収穫（開花後7～10日後）

収穫は、実の長さが15～20cm程度になったタイミングが目安です。黄緑色から濃い緑色に変化したら最適な収穫時期です。収穫が始まると開花や実をつけるのが早くなるため、毎日または数日に一度の収穫が望ましいです。

## ～結びに～

この夏も猛暑が予想されます。農作業にあたっては安全を心がけ、熱中症対策を徹底して体調管理に努めましょう。また、クマの目撃情報が相次いでいるため、単独での行動は避け、複数人で行い、クマ鈴やラジオなどで存在を知らせてください。詳細はHPをご確認ください。

問い合わせ先 山梨県峡南農務事務所（峡南地域普及センター）  
農業農村支援課担い手育成担当  
住所：市川三郷町高田111-1  
電話番号：055-240-4116